

病理学概論		講義	教授 加藤 政彦	
科目カテゴリー	救急救命士コースの専門基礎分野	科目ナンバリング	13321101	

1. 授業のねらい・概要

解剖学・生理学で学んだ知識を基に、各疾患の病態を学修し、救急救命士として臨床の現場で病理学的な知識を活かすことができるようにする。

2. 授業の進め方

テキストの内容を、適宜、スライドと配布資料を用いて授業する。授業の最後に最近の国家試験問題などを出題し解答を出席カードに記載して提出させる。

3. 授業計画

1. 病理学総論①（序、細胞・組織障害、再生と修復）	8. 病理学各論①（循環器系）
2. 病理学総論②（循環障害）	9. 病理学各論②（呼吸器系）
3. 病理学総論③（炎症、免疫とアレルギー）	10. 病理学各論③（消化器系）
4. 病理学総論④（感染症）	11. 病理学各論④（内分泌系）
5. 病理学総論⑤（代謝異常）	12. 病理学各論⑤（造血器系）
6. 病理学総論⑥（老化と老年病、腫瘍）	13. 病理学各論⑥（腎・尿路系）
7. 病理学総論⑦（新生児、先天異常、生命の危機）	14. 病理学各論⑦（生殖器・乳腺、運動器系）
	15. 病理学各論⑧（脳・神経系、感覚器系）

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容を、テキストと配布資料を使って復習しておく。さらに、授業の最後に出された問題を復習しておく。この問題は次回の授業の初めに解答を解説する。なお、これらの準備学習には90分以上が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回、過去に実施された国家試験などの問題を実践、解答させる。問題解答の際、また定期試験実施の際、解答のポイントおよび出題意図を試験終了後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

- 1) 授業で学修した医学・病理学用語の説明ができる。
- 2) 適切・的確な救急処置をおこなうため、各疾患の病態を正確に理解する。

7. 成績評価の方法・基準

平常点（30%）、定期試験（70%）を総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

テキスト：渡辺照男編、カラーで学べる病理学 第5版、ヌーヴェルヒロカワ、2019年

参考文献：小関一英編、2023年版救急救命士国家試験対策出題分野別国試験問題・解説集、晴れ書房、2022年
適宜指定する教材

テキストは毎回の授業に必ず持参すること。また、参考文献は適宜紹介する。

9. 受講上の留意事項

携帯電話の使用、飲食、帽子の着用は禁止とする。

欠席回数が全講義回数の3分の1（6回）以上となった場合には受験資格を失う。

遅刻、欠席ならびに授業中の私語、許可の無い教室の出入り、授業に関係ない言動は慎むこと。

医学系授業の基礎となり、医療従事者であれば常に考え、身につけなければならない学習内容である。
本科目の単位を取得してからでないと、専門分野への履修申請を行うことができない科目がある。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当あり。医療機関における医師としての実務経験を活かして講義を行う。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。